

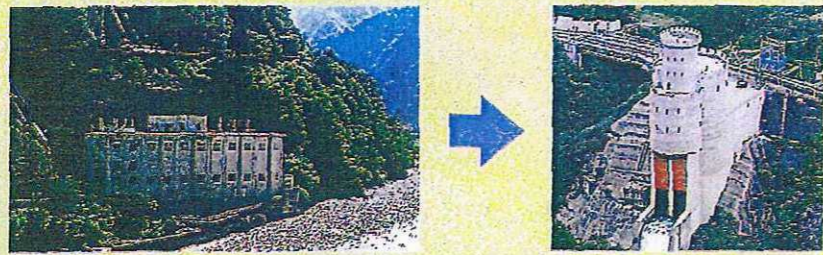
① 柳河原発電所

(大正13年～昭和2年…日本電力により建設)

当発電所建設以前の交通ルートは、宇奈月から上流にわずかな歩道だけがあり、両岸には岸壁がそそりたっている状態でした。しかし苦闘の末、資材運搬のための専用軌道(現在の黒部峡谷鉄道)が建設されました。

建設は大洪水や雪崩などの自然災害と戦いながらの難工事となりましたが、昭和2年に運転開始しました。

このように歴史ある発電所でしたが、現在建設省が築造中の宇奈月ダム(平成12年完成予定の多目的ダム)が完成すると水没するため平成5年に除却し、下流70m地点に新柳河原発電所として生まれ変わりました。

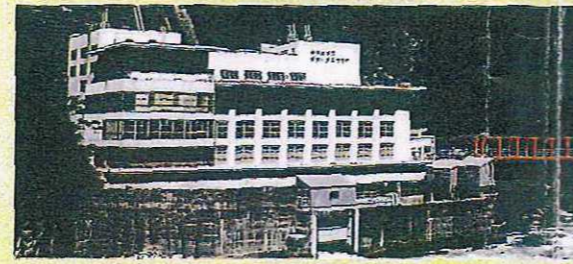


② 黒部川第二発電所

(昭和8年～11年…日本電力により建設)

当発電所とそのダム(小屋平ダム)は、当時気鋭の家山口文象氏の設計によるものです。完成当時からの注目を浴びたこれらの施設のデザインは、昭和62年「富山の建築百選」に発電所建物が選ばれ、60年を経てもその輝きを失っていません。

発電所建物が直線的で力強さを感じさせるのに対し、橋は曲線の美しさで協調しています。



黒部川第二発電所と目黒橋(赤い橋)

③ 黒部川第三発電所

(昭和11年～15年…日本電力により建設)

標平の黒部川に静かな姿をうつし、自然にとけ込んでいる当発電所を見ても、その歴史を知る人は少ないでしょう。そこには、160℃を越す高熱地帯でのトンネル工事や二度にわたる「泡雪崩」等、自然の猛威に直面しながら、日本電力の社運をかけた一大スペクタクルの展開があります。



④ 黒部川第四発電所

(昭和31年～38年…関西電力により建設)

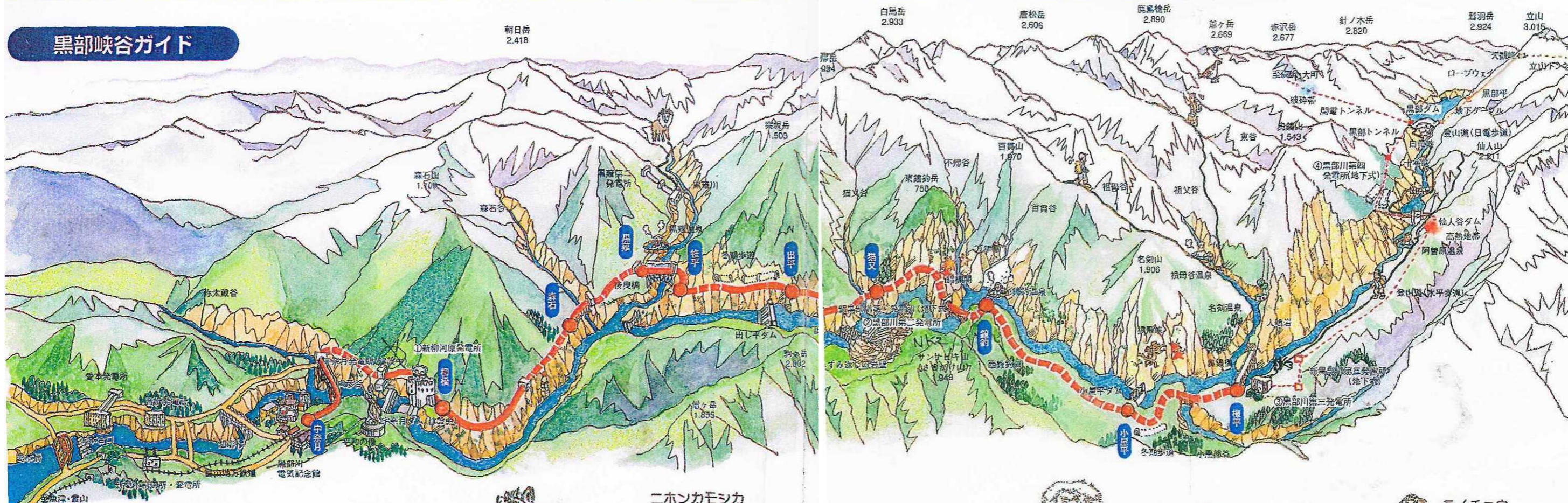
北アルプスの自然保護のもと人類史上稀にみる大規模工事「クロヨン建設」。

後立山連峰の赤沢岳(標高2,677m)の山腹をぶち抜く工事には、我が国の地質・土木学会の英知が結集され、まさに関西電力の社運をかけた難工事がここにあります。



(全地下式)

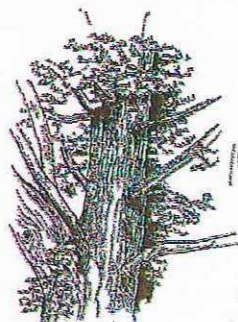
黒部峡谷ガイド



黒部川にすむ生き物

黒ヒノキ

別名をクロベという。黒部峡谷の岩壁に多く生育する代表的な針葉樹。クロベは、高さ10メートルから30メートルにもなり、葉が多く、夏涼しいところに繁茂する。

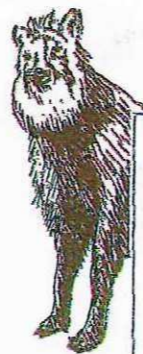
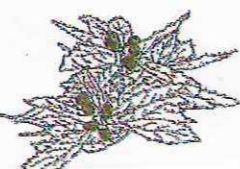


ヤマセミ

美しい鹿の子模様が特徴で、宇奈月より上流に生息する。崖づちに横穴を開けて巣を作り、その穴の端で魚が現れるのを待ち伏せる。姿が見えたら一気にダイビング。捕まった魚は、岩の上でうちつけて食べるといった器用な鳥。

コナラ

日当たりの良い山里に見られる。葉は長く、先端がとがっている。樹木は椎茸栽培の原木に利用される。標高500m以下にまで分布。



ニホンカモシカ

8円切手でもおなじみ。富山県の県獣にも指定されている。



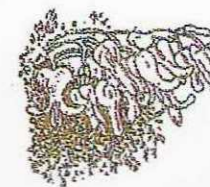
ニホンザル

現在、黒部には30余り



ライチヨウ

富山県の鳥といえば「ライチヨウ」。国の特別天然記念物。標高が高くハイマツが生えるところにのみ生息。春から夏にかけてペアで生活し、ヒナが生まれと母子だけで行動する。



コマクサ

標高2500m以上の高山に咲く薄紫色の袋花は、夏の顔に似ているといえ、

黒部ルート断面図

